らざれば老臣を代らしめて、生徒一同に賞賜する例であつた。劍術・槍術は、士分十六歳から三十九歳に至るまで、一ヶ月三回館内に於いて演習せしめる。歩士は演武の爲學校に上るが、文學は單に奬勵せられるに過ぎぬ。算法・書道・兵學・弓術・馬術・棒術・柔術・炮術等は、藩校の直接關係する所でないが、士分には兵學・弓馬を、足輕には棒術・柔術・炮術を主とせしめた。學校の職員は、事務に主附二人・用係二人・目附役四人・留書役三人・雜役六人、教員に會頭二人・示談相手二人・助教四人・句讀師約二十人、躾方師範三人があつた。學校は初め時習館のみであつたが、前田利鬯は安政四年六月八日その武術稽古所を改めて有備館と稱し、又明治二年三月時習館の域内に董正館・達材舍・成德舍（後に溫知舍と改む）・啓蒙舍を建て、之を總稱して大聖寺藩學校といつた。

シジユウクイン　四十九院　江沼郡四十九院谷に屬する部落。

シジユウクインダニ　四十九院谷　江沼郡では郷庄名を失うたから、かうした區劃名を用ひたので、四十九院谷には、上河崎・吸坂・下河崎・中代・加茂・上野・二ッ屋・横北・小坂・水田丸・柏野・塔ノ尾・菅生谷・瀧・中津原・四十九院・須ノ谷・桂谷・尾俣の十九ヶ村が含まれてゐた。

ジシユウジイン　時宗寺院　藩政時代に於いて、時宗寺院の領内に在るものは、越中高岡の淨土寺と、金澤の玉泉寺とのみで、玉泉寺は泉寺町の拜領地にあり、寺領六十石の外に月並連歌料十二石の寄進を受けて居た。

シジユウマ　四十萬　→シジマ　四十萬。

ジシヨウ　時鐘　→トキガネ　時鐘。

ジシヨウ　自笑　→イヅミヤジショウ　泉屋自笑。

ジシヨウイン　自性院　前田知好の室大井氏の法號。

ジシヨウイン　自昌院　加賀藩主第三代前田利常の子滿姫の法號。詳しくは自昌院花心日妙大姉。

シシヨウドリ　師匠取　能登に於いて、舊時女子の入嫁した時は、新たにその婿家の屬する寺院の檀徒となる式で、檀那寺詣で、住持と婦との間に換盃することをいうた。

シシヨカイテンリヤク　四書改點略　一冊。新井輔德著。著者は從來行はれた四書の訓點が雜駁なるに鑑み、その誤謬の甚だしいと思はれるもの三百餘節を拔いて、獨創の改點を施したものである。安政三年新井氏の家塾古易館の藏版として刊行せられてゐる。

シジヨカク　四序閣　金澤吹上（今長良町）に於ける小堀永賴の別墅。眺望絶佳。寛延三年池大雅こゝに留り、布袋の水に流れる圖を壁上に描いたといふ。

シジヨカクシカ　四序閣詩歌　一冊。四序閣十景詩・同詩卷序並詩・松島畫卷跋・小堀牛山八十之賀詩歌を集めてある。牛山小堀永賴の子定明の編したものであらう。

シシヨシユチユウシセイベンギ　四書朱註四聲辨疑　二十五冊。生駒直武の著である。

シシヨワドクコウ　四書和讀考　二冊。高畠慶成著。坊間に行はれる四書訓點の誤を正し、幼學の爲にしたもので、寶曆己卯十一月著者の自序がある。

ジシン　地震　藩政以後に於ける震災の强烈なるものは、第一に天正十三年十一月廿七日越中に大震があつて、餘震廿九日の夜に及び、礪波郡木船城崩壞し、城主前田秀繼以下多く壓死した。第二に寛永十七年十月十日加賀大聖寺大に震ひ、家屋損壞多く、人畜死傷した。第三に寶永四年十月四日午の下刻大聖寺に大地震があり、潰家數戸を生じ、その後九日まで及び十二日から十六日まで時々微震があつた。第四に享保十四年能登鳳至郡に大震あつて、七月七日の震動三十四回に達し、輪島のみの家屋倒壞三百餘に達した。しかし是等は皆金澤に何等の損害を及ぼさなかつたやうである。その後天明六年十一月七日戌の上刻金澤に强震があり、產婦の壓死したものすらあつた。次いで寛政十一年五月廿六日申刻大震があり、金澤城内外に崩壞したる石壘塀墻頗る多く、卯辰玄門寺の巨佛倒壞し、河北郡黑津船社の神主齋藤近江の住宅土中に陷沒し、その家族は悉く死んだ。この震害に大聖寺藩邸の土藏・玄關潰れ、露地内に割目を生じた。又享和二年十月廿二日大聖寺に强震あり、十一月十五日も同樣であつた。又文化十二年正月廿二日の大震には、小松城の損壞甚だしく、この月廿一日から二月十八日までの間に、鳳至郡淺生田村の山岳崩壞すること十七ヶ所に及んだとあるが、金澤には被害がなかつた。次に文政二年六月十二日の地震には、城下家屋の倒壞したものがあり、天保四年十月廿六日輪島の地震は海嘯を伴うて、流失家屋三百七十二・死人四十七に及び、安政五年二月廿六日曉八ッ時過金澤の强震は餘震十餘日に及び、城郭の石垣も崩壞した所があり、大聖寺でも戸障子が倒れ、壁等に大破を生じた。之を要するに金澤に在つては、寛政の震害を最大とし、安政のもの之に次ぐやうである。明治以降金澤測候所の觀測では、明治廿四年十月廿八日濃尾大震害の餘波は强震を感ぜしめたが、大正十二年九月一日の關東大震災では、僅かに弱震があつたに過ぎぬ。

ジシンイシ　地震石　→カナメイシ　要石。

ジシンバン　自身番　→テイシユバン　亭主番。

ジセイイン　自淸院　加賀藩主第三代前田利常の子春姫の法號。詳しくは自淸院薫室賢良大姉。

ジセイグサ　時勢艸　著者は加賀藩士で、俳諧を好んだものと見え、戯文狂句の類が多く載せられる。今卷二のみを存し、安永五年からの時事に就いて書き初めてある。

シセキ　紫石　加賀の俳人。春曉齋と號し、花道をも修め、文化十年の頃見果ぬちりを編した。

シセン　紫仙　野角の妻で俳人である。野角は越中高岡の人であるが、後金澤に住んでゐた。紫仙が千代と試みた歌仙の附合は、享保十一年刊行せられた姫の式に載せられてゐる。

シセンリヤクフ　四戰略譜　五冊。有澤永貞が寶永二年十月から起草し、四年九月に至つて脫稿したものである。四戰とは關ヶ原・長湫・姉川・柳ヶ瀬の各戰鬪を指す。

シソウ　詩叢　二冊。第一卷は育德園諸詩・金殿應教詩集・春水錄・九月六日原泉先生饌筵集・二英篇・金臺春英、第二卷は隨分齋十二律・加陽諸家詩文集・明倫堂盛集詩歌を收めてある。